OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	オープンサイエンス時代における研究データマネジメントの基礎について学ぶ
Author(s)	大阪大学研究推進本部オープンサイエンス推進室
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/93345
rights	This article is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

新任教員研修プログラム

オープンサイエンス時代における研究データマネジメントの基礎について学ぶ

2023年10月～2024年3月　オンライン開催

オープンサイエンス推進室

本コンテンツは動画配信コンテンツを基に作成しています

目　次

1. 研究データマネジメントを知る
2. 研究データポリシーと関係規定等
3. 研究データ管理計画
4. 研究データを取得・収集および保存・共有する
5. 研究データを公開する
6. 大阪大学機関リポジトリ OUKA
7. 研究データを利活用する
8. 大阪大学の研究データ基盤・連携の紹介

1. 研究データマネジメントを知る

研究データマネジメントの必要性

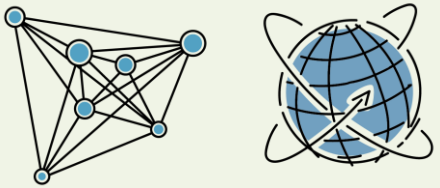
◆ 研究データを適切に管理すると

➡ 研究データの散逸防止　研究効率化　異分野融合　研究者評価の多様化

研究公正

✓ 研究データは研究公正において重要なエビデンス
（大学の説明責任も）

オープンサイエンス



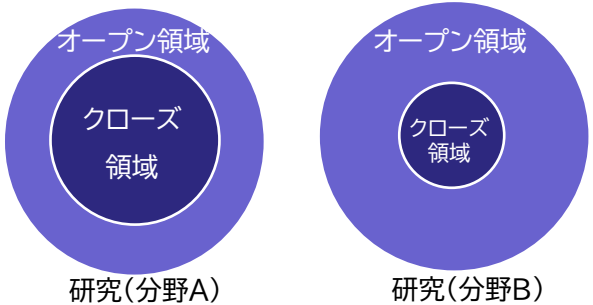
✓ 研究データは重要な研究の種
（研究効率化やイノベーション創出）

◆ データの特性別のオープン・アンド・クローズ戦略が重要

✓ 国益や大学の利益に繋がる財産的価値のある成果物の保護

✓ 分野の特性など考慮した戦略　など

➡ 国内外の関係法令や学内規則等の把握が重要



研究データマネジメントの意義

◆研究者のメリット

先行する海外の学術機関が掲げるRDMのメリット

- ○ 自分の研究への影響力を増加
- ○ 適切な管理によるデータ分析時間の短縮
- ○ データの長期（永久）保存、データの完全性の維持
- ○ 資金配分機関の要件の充足と助成金獲得による競争力向上
- ○ 新しい発見、効果的な共有と再利用の促進
- ○ オープンアクセスのサポート
- ○ 次世代の研究者の利活用へ貢献

京都大学図書館機構（2023，04）「これからのリサーチデータマネジメント（RDM）」，p.2. https://www.kulib.Kyoto-u.ac.jp/uploads/RDM leaflet ja A4.pdf

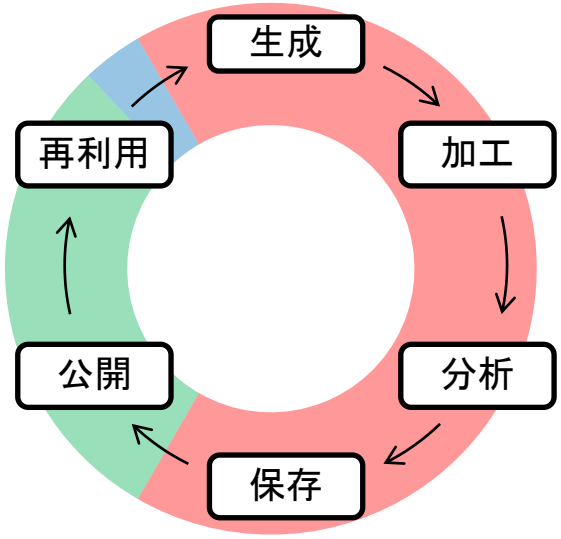
研究データのライフサイクル

◆ 研究データのライフサイクル

研究プロジェクトにおいて使用、あるいは生成された情報は、以下のサイクルの中で組織化、構造化、保管、管理される

研究前

研究データの取り扱い計画の策定



研究中

研究中の日々の情報の取り扱い
－研究データのライフサイクルの各段階
・全段階におけるデータの管理

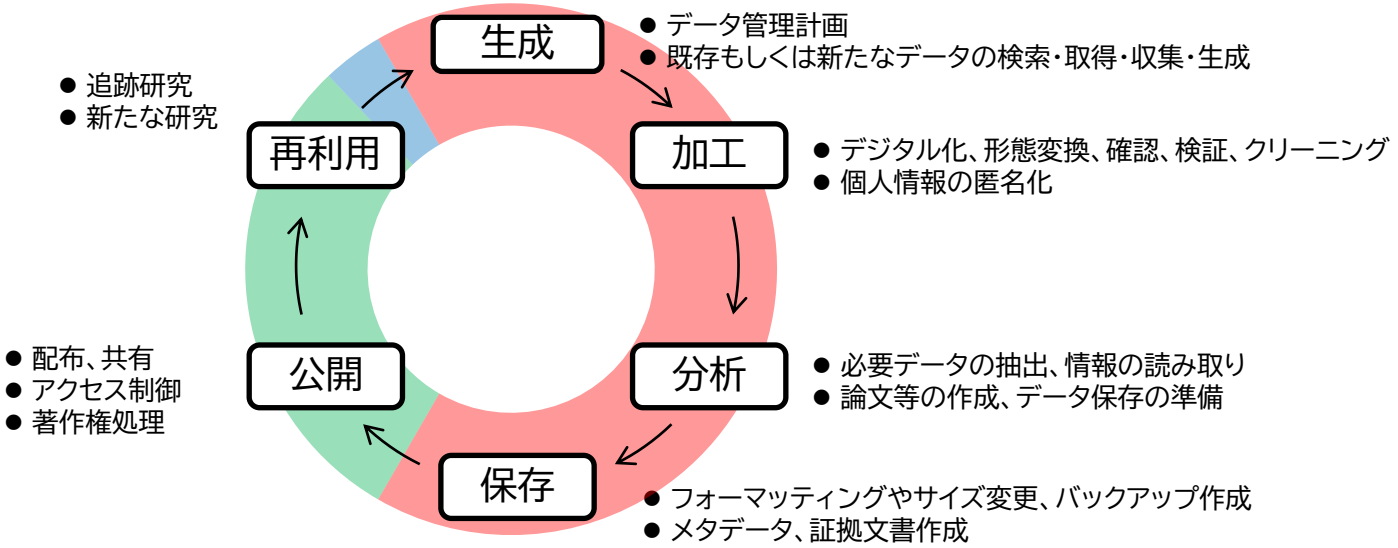
研究後

研究後の長期的なデータの取り扱い

- Cf., The UK Data Service. (n.d.). Research data management. https://www.ukdataservice.ac.uk/manage-data/lifecycle.aspx
- van Selm, M. (2015). RDM Support - basic training course for information specialists. figshare. Dataset. https://doi.org/10.6084/m9.figshare.1285313.v1 を元に加工.
- 吉田et al.(2021, 02, 10)「研究データ管理サービスの設計と実践_第1章_第2版」『 教材「研究データ管理サービスの設計と実践」』, p.6. オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)研究データ作業部会. https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/607 を元に加工.

研究データのライフサイクル

◆ 各段階の具体例



組織化、文書化、保存、共有が適切になされたデータは、科学研究を推進し、学習、イノベーションの機会を増やす

吉田 et al.(2021, 02, 10)「研究データ管理サービスの設計と実践_第1章_第2版」『 教材「研究データ管理サービスの設計と実践」』, p.15. オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)研究データ作業部会. https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/607

世界と日本におけるオープンサイエンスの動向
―海外の動向―

◆ 資金配分機関の動き

2003年頃の米国国立衛生研究所（NIH）の動きを皮切りにアメリカ国立科学財団（NSF）などが研究データの公開やデータマネジメントプラン（以下、DMP）の提出を義務化
欧州などの多くの資金配分機関が次々とこのような取組みを展開

⇒データ公開による研究成果の価値向上やデータの再利用による投資効果の最大化
⇒公的資金による研究成果の市民への還元

◆ 原則等の展開

FORCE11（研究データの流通や活用を推進する国際イニシアティブ）
2016年にFAIR原則（The FAIR Data Principles）を公開

Findable、Accessible、Interoperable、Reusableの略で、データ公開の適切な実施方法を表現

◆ データ基盤の展開

2018年に欧州オープンサイエンスクラウド（European Open Science Cloud：EOSC）が公開

欧州域内の研究インフラを繋ぎオープンサイエンスを実践するためのプロジェクト

世界と日本におけるオープンサイエンスの動向
―国内の動向―

◆ 本格的な議論開始 @ 日本

2013年　G8科学大臣会合「研究データのオープン化を確約する共同声明」

◆ 資金配分機関の動き

2016年～　　一部で研究プロジェクト申請時にDMPの提出、エビデンスデータの公開義務化

◆ 国の基本的な方針

2021年3月　第6期科学技術・イノベーション基本計画

機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人が2025年までにデータポリシーを策定すること

- 内閣府「国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン」（2018年）
- 大学ICT推進協議会「大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン」（2021年）

資金配分機関に対して公募型の研究資金の新規公募分において、2023年度までにDMP及びこれと連動したメタデータを付与する仕組みを導入すること　など

- DMP提出が必要な資金配分機関（現時点）

JST、AMED、NEDO

※科研費はR6年度から全ての研究種目で実施予定

◆ NII研究データ基盤（NII RDC）

2021年～　研究データ管理基盤（GakuNin RDM）、公開基盤（JAIRO Cloud）、検索基盤（CiNii Research）等の連携

世界と日本におけるオープンサイエンスの動向
―国内の動向―

◆ プラン S:ヨーロッパ

完全即時OA(オープンアクセス)を求める欧州研究助成機関コンソーシアムcOAlition Sのイニシアティブ
⇒2021年1月に発効

◆ 科学技術政策局(OSTP):アメリカ

公的資金による研究成果(論文及び根拠データ)を即時OA
⇒2024年末までに方針公開、2025年末までに施行

◆ G7サミット(2023.5)における共同声明

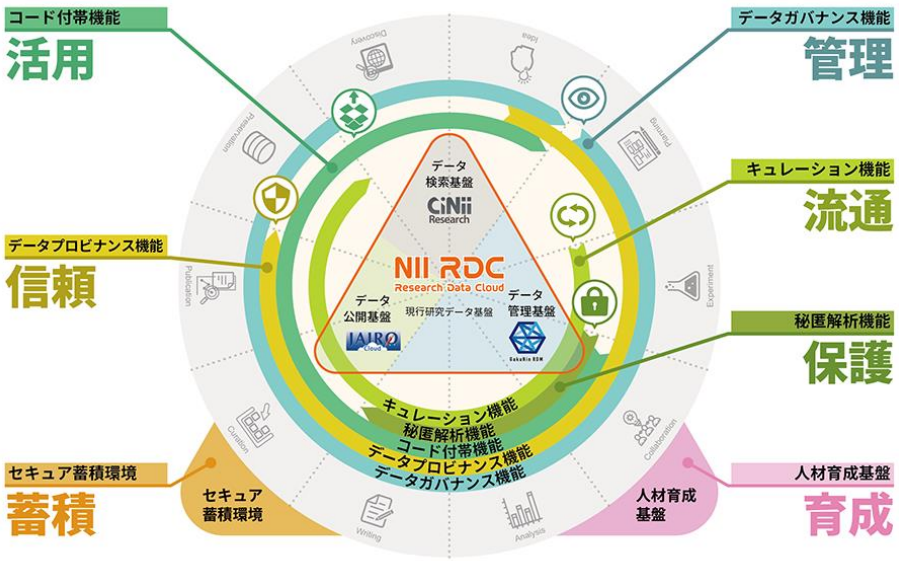
G7科学技術大臣コミュニケ・G7広島首脳コミュニケ
公的資金による研究成果(学術出版物及び科学データ)に対して即時OAを支援、オープンサイエンスを推進

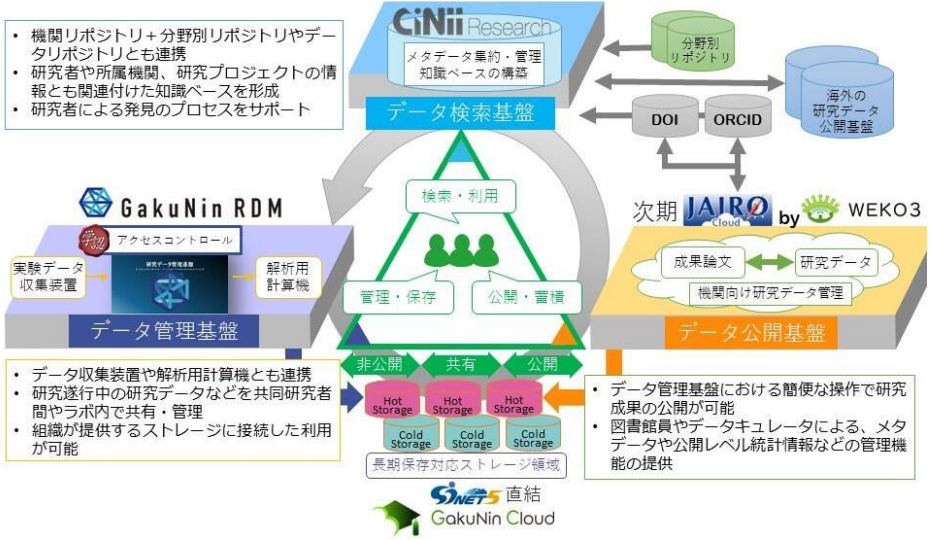
◆ **統合イノベーション戦略2023〔2023/6/9 閣議決定〕**

G7広島サミット・G7仙台科学技術大臣会合を踏まえ、我が国の競争的研究費制度における2025年度新規公募分からの学術論文等(バックデータ含む)の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定

研究者の負担軽減のための取組み
－NII研究データ基盤（NII Research Data Cloud）－

オープンサイエンスを支える全国的な基盤として2021年から本格的にスタート





国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター（n.d.）「NII研究データ基盤（NII Research Data Cloud：NII RDC）の概要」国立情報学研究所.
https://rcos.nii.ac.jp/service/

参照資料

- 京都大学図書館機構(2023, 04)「これからのリサーチデータマネジメント(RDM)」, p.2. https://www.kulib.Kyoto-u.ac.jp/uploads/RDM leaflet ja A4.pdf
- 国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター(n.d.)「NII研究データ基盤(NII Research Data Cloud:NII RDC)の概要」国立情報学研究所. https://rcos.nii.ac.jp/service/
- 吉田幸苗, 天野絵里子, 松本侑子, 西薗由依, 山地一禎, 南山泰之, 尾城孝一, 常川真央, 大園隼彦(2021, 02, 10)「研究データ管理サービスの設計と実践 第1章 第2版」『 教材「研究データ管理サービスの設計と実践」』, p.6. オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)研究データ作業部会. https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/607
- The UK Data Service. (n.d.). Research data management. https://www.ukdataservice.ac.uk/manage-data/lifecycle.aspx
- van Selm, M. (2015). RDM Support - basic training course for information specialists. figshare. Dataset. https://doi.org/10.6084/m9.figshare.1285313.v1

次の動画

研究データポリシーと関係規定等

大阪大学
公式マスコットキャラクター
「ワニ博士」

OSAKA UNIVERSITY